

メカニック
デザイナー

大河原邦男

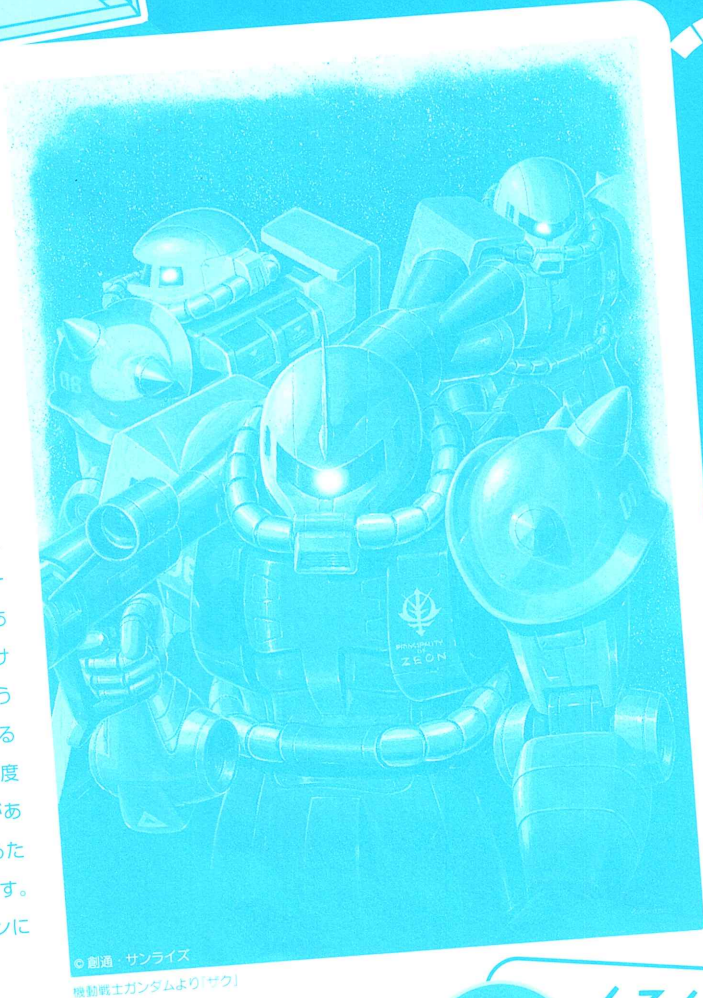
平成22年7月24日[土]～9月6日[月]

平成22年7月24日(土) 17:30まで

時間 / 9:40~18:00 (入場は 17:30 まで)

時間 / 9:40 ~ 18:00 (入場は 17:50 まで)

アニメのメカデザインの巨匠、大河原邦男の展覧会です。メカデザイン？と首を傾げる方も多いと思います。それは、空想科学アニメや漫画の中に登場する、ロボットや乗り物、武器など、空想で造られたメカ(機械)のことです。日本のアニメは世界で認められ、多くのファンがいます。それは、日本のアニメが、魅力的なキャラクターやストーリーの展開、美しい背景美術などが高く評価されていることに起因します。キャラクターの一つである、メカデザインも注目をされています。そのため、空想科学アニメには魅力的なメカを登場させなくてはなりません。大河原が語る「現実、に形にしようと思えばできるメカデザインしか、しない。」という言葉が示すように、リアリティのあるデザインが、国内外のこだわりを持ったアニメファンに高く評価され、業界を支えていると言って過言ではないでしょう。大河原の名を一躍有名にしたのは、やはり機動戦士ガンダムでしょう。昨年度はガンダム放映 30 周年記念として、東京のお台場に実物大ガンダムが展示され、約 415 万人余りの集客があり、その経済効果は 3000 億円とも言われています。たかが 1 体のロボット(正確にはモビルスーツ)を見るためにそれだけの人が集ったことは驚きですが、30 年前のデザインが今日でも色あせていないとも言えます。この展覧会は、大河原の仕事を初期から大観できる貴重な機会であり、また、美術館でアニメのメカデザインに特化した展覧会開催するのも大変珍しい企画ですので、ぜひ、お楽しみください。(K.E.)



関連イベント

- **大原原邦男サイン会**
7月24日(土)10:00～
場所：新館エントランスホール
※先着150名(本展図録をご購入の方対象)
- **大原原邦男トークショー**
8月7日(土)14:00開場14:30開演
場所：松山市民会館中ホール
入場料：一般1,200円
 高大生700円 小中生500円
※全席自由、本展観覧券込み。
※チケット販売所はお問い合わせください。
- **ワークシートによる対話型鑑賞プログラム
「キミはロボットをミタカ?」**
8月中の毎週日曜日 10:00～17:00
※時間内に企画展示室で随時受付
※申込不要。ただし観覧券が必要です。
- **ロボットをつくろう**
8月7日(土)、8日(日)10:30～16:00
小学生～一般・15名 ※2日間連続で参加できる方
材料費1,000円
※7/24まで電話にてお申込みください。
- **学芸員によるフロアレクチャー**
8月14日(土)、21日(土)15:00～15:00
場所：企画展示室
※申込不要。ただし観覧券観覧券が必要です。

くるくるシャワー

白い紙でプロペラ状の「くるくる」を作り、空間に放ちます。
「くるくる」が舞う景色を楽しんでみませんか？

- 8/28(土)・29(日)
各 11:00～12:00、14:00～15:00
※申込不要。上記の時間帯にいつでも参加できます。

レポート Report

実技講座

「水で描こう」

今年度の第1回美技講座は、水によって様々なに変化する絵の具の美しさを体感していただくという目標のもと、3つの技法に挑戦しました。まず4月29日の「マーブリング」では、15世紀トルコの「エブル」技法に起源を持つ西洋式マーブリングと平安時代に日本で始まった「墨流し」の技法に取り組みました。絵の具と水の動きが生み出した美しい模様の紙を、たくさん持ち帰っていただきました。5月9日は、かの有名な俵屋宗達の「風神雷神図屏風」にも用いられている「たらしこみ」技法に挑戦しました。色同士が混ざり合うグラデーションの美しさを皆さん堪能されていました。最終回の5月23日は、水でぬらした紙をベースに絵を描き「にじみ」を味わった後、折りたたんだ和紙に色を入れて「板締め和紙」の技法で染付け、楽しい模様の色和紙をたくさん作りました。参加してくれた子供たちのうれしい笑顔が印象的でした。3回とも参加してくださいだった方、真剣にメモを取っていただいた研究熱心な方、がんばった子供たち。皆さんに支えられ、水彩表現の奥の深さや可能性を感じた中身の濃い講座になりました。ありがとうございました。(T.I.)



つぶやき

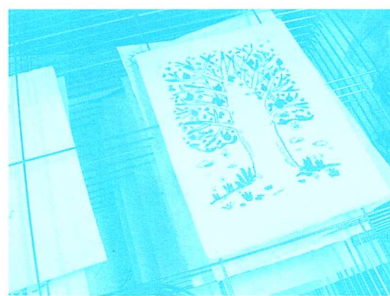
美術体験講座

「かんたんリトグラフ」

リトグラフ。よく作品の技法で聞いたことがありますよね。リトグラフは水と油の反発作用を利用した版画で、油性の描画材で描いた版面に化学的な処理を施し、水で湿らせながら描画部のみにインクを盛り、それを転写する手法です。と言われても理解しがたく、制作してみてもわかりにくいのがリトグラフ！当館のアトリエでもリトグラフができる設備が整っているが、利用者は稀な状況です。そんな折、昨年度の展覧会「ミルコトカラハジマル」に出品いただいた石山直司さんが展覧会会期中のワークショップで「目からウロコ」のリトグラフを紹介してくれました。それは、新たな版材であるポリエステル・フィルムを使用するもので、一般的な版材の石や金属板では欠かせない薬品処理を全く必要とせず、油性で描画したものがそのまま版になるというシンプルな手法でした。

敬遠されがちなりトグラフとの距離を縮めてくれる技法、そして、
描画材もボールペン、マジックといった馴染みのあるもので、何より
作業工程が単純であることに魅力を感じ、講座に取り入れました。

講座にはリトグラフは初めてということもから大人までが参加し、描画をただで版になるというのが、刷り上がるまで半信半疑の様子でした。一通りの工程を経て、ようやく水と油の関係を利用したリトグラフを得ることができたようです。その後は、手順もすぐに飲み込み、個々が手際よく刷りを繰り返しました。この手法で、リトグラフが身近な存在になったように思います。(M.I.)



- 次回「かんたんリトグラフ」
9/12(日) 13:30～16:00(申込締切 8/28(土))

アトリエ同好会

2009版画展

美術館には自由に創作できるスペース「アトリエ」があり、場所と機材を利用して多くの自分のペースで織りや紡ぎ、版画などの制作をしています。また、アトリエでは利用者が制作を継続する過程で生じる制作上の迷い、問題というものを共有し、学び合う活動として「アトリエ同好会」を設置しています。

アトリエ同好会では、1 年間に 1 種目ということで、昨年度は版画を取り上げました。みなさん 1 年間熱心に制作に励み、この 6 月に会員の活動の成果として作品展を開催しました。会員の中に木口木版画家の方が参加していたこともあり、同好会では繊細で機密な描写が特徴の木口木版画が密かなブームとなり、展示の多くを占めました。木口木版画は初めてという会員がほとんどで、線で表現する難しさに戸惑っていましたが、作家の方も「ここまでできるとは」と感心するほどに上達していました。木口木版画以外にも様々な版種を用いて 1 つの作品に仕上げたものもあり、どの作品も自由に版画を楽しんでおり、鑑賞者にもそのよさが伝わっていました。

アトリエ同好会での版画は、ひとまず修了しましたが、会員のつながりは今後も継続され、早くも次なる展覧会の目標も掲げています。(M. I.)



今年度の同好会のテーマは「染め」。新たな会員で始動しています。ご興味のある方は、アトリエをのぞいてみてください。
※活動日は、館内、HPで告知しています。



秋季開催の東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展には、本県出身の越智健三、伊藤一廣、柳原睦夫、木村芳郎、本県在住の工藤省治の作品も出品されます。本県縁の先生方の作品の魅力を見つめ直していただける好機です。(N.T.)

企画展 2

平成 22 年 9 月 18 日[土] - 10 月 31 日[日]

休館日は 9/21(火)、27(月)、10/5(火)、12(火)、18(月)、25(月)

※会期中に一部作品の入替えがあります。

時間 / 9:40~18:00 (入場は 17:30 まで)

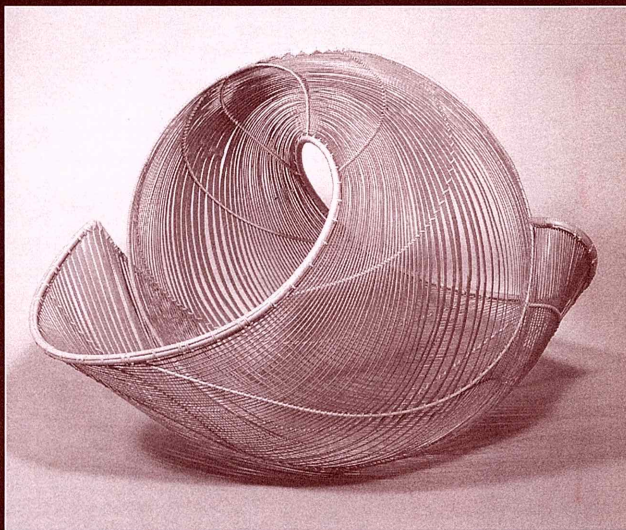
※初日の 9/18 は開展式開催のため観覧は 10:00 から

東京国立近代美術館工芸館は 1977 年、皇居の北側に位置する緑豊かな北の丸公園に開館しました。移築した国指定重要文化財の明治洋風建築が美術館として機能しています。開館以前に収集された陶芸作品と、文化庁から管理換えされた重要無形文化財保持者の手になる伝統工芸作品を主としたコレクションを基盤に活動をスタートさせた後も、30 年を超える永い歳月をかけて近現代工芸の流れを概観できるコレクションの形成が図られてきました。

香川県立ミュージアムと愛媛県美術館を巡回する本展は、質量ともに充実したコレクションより 1950 年代中頃以降の作品を対象に厳選した、陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、プロダクト・デザインの名品を、「表現のたね—素材の魅力を引き出す」「創るおこない—研ぎ澄まされた技」「ひろがる表現—使う・眺める立場から」の三章構成で紹介するものです。なお会場では、最終章「白磁の造形—90 年代以降の展開」を特設します。

そもそも工芸とは何か、工芸で何ができるのか、何をしたいのか自問自答が繰り返され、新たな表現の大波が幾重にも盛り上がりを見せた 1950 年代中頃以降の日本工芸の来し方行く末を、心豊かに大観していただけますようお願いいたします。(N.T.)

東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展 耀くわざと美—日本工芸のいま (仮称)



生野祥雲斎 竹華器 怒涛 1956 年

記念講演会

講師：木田拓也氏(東京国立近代美術館工芸課主任研究員)

日時：10 月 11 日(月・祝) 14:00 - 15:30

場所：新館 1 階 講堂

※聴講無料、当日先着 120 名

Topics

平成 21 年度 新収蔵品展

平成 22 年 6 月 4 日[金] -
9 月 26 日[日]

昨年度新たに収蔵した作品をご紹介します「新収蔵品展」が始まりました。愛媛県出身もしくはゆかりの作家の作品が中心となる新収蔵品は、購入・寄贈あわせて 250 組 500 点。そのうち 229 点にのぼる畦地梅太郎の作品は、その一部を展示しています。

今回の展示の見どころは、何と言っても表現の多様さです。一例を挙げると、山田彩加のリトグラフは単色で大画面でありながら濃厚で緻密な表現を達成しています。一方、近藤英樹のリトグラフは、単純化したフォルムを洗練された優しい色彩で表現しています。また、山本修司の作品は大樹を真下から見上げたような木漏れ日を、スプレーで吹き付けたアクリル絵具で表現。一方、井川惺亮は 3 原色を中心とした 9 つの既成色の面を積み重ねた大画面を作り、空間へ浮遊させることによって、絵画を壁面や床から解放しています。ミュージカル「鶴姫伝説」のイメージとなった智内兄助の作品も、アクリル絵具で描いたものです。

同じ、あるいは類似した技法であっても、それぞれの作家の手によって多種多様な表現が生まれます。多彩な表現の協演を堪能できる内容となっていますので、ぜひご鑑賞ください。(K.N.)



New face



智内兄助《この海の伝説》2006 年

Column 1 これからの展覧会のオススメの見所をご紹介!



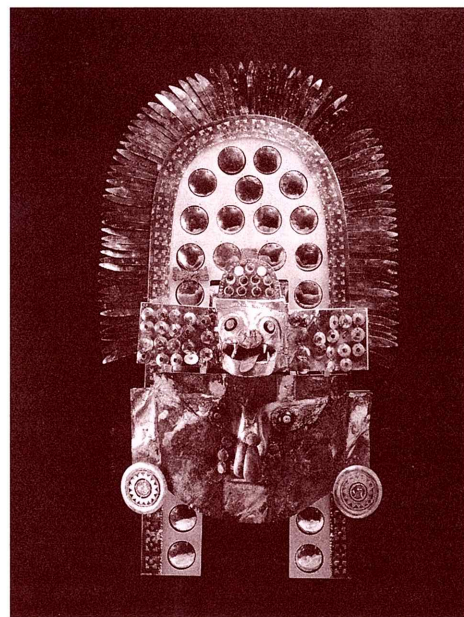
インカ帝国のルーツ 黄金の都 シカン

平成 22 年 11 月 17 日[水] - 平成 23 年 1 月 10 日[月]

もしもあなたが考古学者だったら、発掘調査隊のチームを作る時、どんな仕事をする人をメンバー第一号に雇いますか? おそらく多くの場合は、その道のエキスパートだったりするのではないのでしょうか。しかし、この「シカン」(現地の言葉で「月の神殿」の意味)文明を発掘した日本人考古学者、島田泉教授が第一号に採用したのは、村でも一番の腕前の「料理人」、セニョーラ・モリさんでした。彼女の作る料理は多くの作業員の胃袋を満足させました。これは「発掘というのはとても過酷な作業なので、隊員には楽しみがないといけない。そしてそれは「食事」なんです」という島田教授の長年の発掘経験から培われた、チーム員を大切にしたい心遣いのひとつです。

そして第二号、つまり発掘作業に携わる人々がどのように採用されたのかということ、教授自ら「この村で若くてみんなに信頼されている人は誰か?」と聴いて廻ったそうです。そうして採用されたのは寡黙だけれど皆に信頼されているミゲルさん、そして発掘の達人エクトルさんの二人。そこからはこの二人をとおした友人・親戚等、教授と固い絆で結ばれたチームが出来上がっていきました。

今回、この「インカ帝国のルーツ 黄金の都 シカン展」でみなさんにご紹介する考古資料は、全てこの島田教授とモリさんたち発掘チームの 30 年にもわたる、地道で確かな発掘作業の賜物です。そんな彼らの息遣いを感じながら、本展覧会をご覧いただければ幸いです。(Y.S.)



(シカン黄金製版面) 11 世紀初期 ベルー文化庁・ペルー国立シカン博物館蔵 撮影：義井豊

Column 2



生誕 100 年特別展 白洲正子— 神と仏、自然への祈り

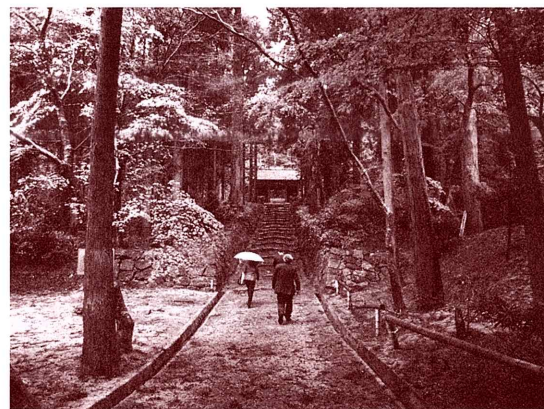
平成 23 年 1 月 29 日[土] - 3 月 6 日[日]

美術・芸能・文学など日本の古典美についての著作で知られる随筆家・白洲正子(1910-98)。最近ではご主人の白洲次郎氏が何かと脚光を浴びていますが、今風に言えば、元祖「レキジョ」とでも言うべき彼女の独自の美意識やライフスタイルは、今なお多くのファンを惹き付けています。

今年は白洲正子生誕 100 年および 13 回忌という大きな節目に当たります。今回の展覧会では、彼女の著作に登場する神仏像や美術工芸品が一堂に会します。見どころは、普段は容易に拝観することがかなわないような秘仏や、門外不出の美術品が数多く出陳されることです。作品には、白洲正子の文章・言葉を添えますので、読み味わいながら鑑賞すれば、作品をより魅力的にご覧いただけるでしょう。

現在はまさに出品交渉の真っ最中。中には、車でも行けない山奥のお寺にうかがうこともしばしばです。しかし実際に訪れてみると、やはり文章そのままの雰囲気広がっていて、とても感動的。この雰囲気ごと何とかなる限り会場で再現できないものか...と、日々思案中です。

仏像ブームの昨今ですが、これまでの展覧会とはひと味もふた味も違った内容になることは間違いありません。開幕まであと半年。どうぞじっくり著作をお読みにになり、万全な予習の上お越しください。「どれから読んでいいかわからない!」という方、まずは「かくれ里」と「十一面観音巡礼」をお勧めします。(T.N.)



ある日の出品交渉。「かくれ里」度満点の山寺にて。

作品保存のおはなし

美術館で注意された! なんて経験をお持ちの方も多いのではないでしょうか?

作品を触らない。話し声は小さく。走らない。携帯電話の使用は…。などなど挙げれば限がありません。しかし、ただ口やかましくお声をかけているのでは無いのです!!!

美術館の主な使命①作品の展示紹介、②研究、③作品の保管・保存があります。展示と保存、相容れないこの二つを同時に実施するために、鑑賞者の方たちの協力が必要になります。その一つが「飲食」です。

今からの季節、外気は蒸し暑くなり、水分補給は健康のためにも必須となります。しかし、作品の天敵は、湿度の変化によるカビや亀裂、害虫による変色、消失。これらの発生を抑える為に、美術館内は原則として、飲食禁止としています。(新館内のみ、南館は利用面から考慮し飲食 OK)

館内には、水飲み場やレストランを設置し、お客様の飲食の空間をご用意しています。所定の場所での飲食にご協力ください。(A.T.)

館内飲食禁止



愛媛県美術館

ハトの声 (編集後記)

新コーナー「作品保存のおはなし」が登場! 美術館では作品保存のために取扱いや環境整備に注意を払っています。実は、来館者の方にもご協力いただいていることがいくつかあります。このコーナーでは、そんな作品にとって大切なお話を紹介します。お楽しみに!(M.I.)

